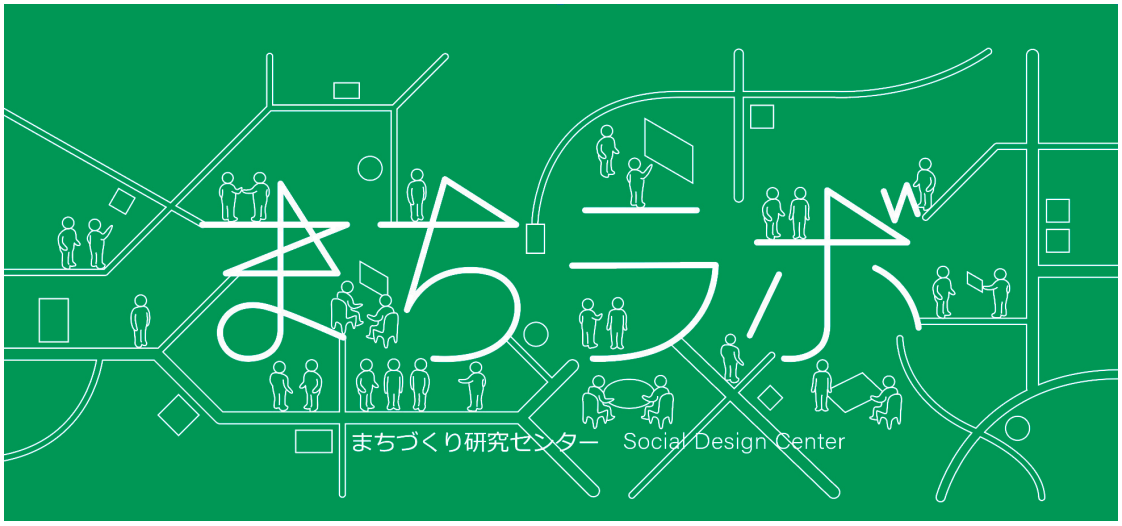


まちづくり研究センター報告書
2024年度

文京学院大学

巻頭あいさつ

2024年4月より、まちづくり研究センターのセンター長を拝命しました。未熟者ではありますが、センターでの研究・教育の発展に力を尽くしたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

まちづくり研究センターは、2019年4月に本郷キャンパスとふじみ野キャンパスに開設されました。本郷キャンパスでは、人間学部コミュニケーション社会学科のまちラボプロジェクトという授業を中心にして、地域に根ざした活動が行われています。ふじみ野キャンパスでは、課外活動という位置づけで、学科や学年を越えた学生たちによる活動や研究が展開しています。教育組織上の違いはありますが、「地域をキャンパスに」という軸を共有しながら、社会や地域の課題を解決していくためのプロジェクトを行っています。

まちづくり研究センター2024年度の活動報告書では、両キャンパスでの多彩な活動がご覧いただけます。バリエーション豊かなプロジェクトが並んでいますが、総じてみると、2020年からのコロナ禍によって中断・制限を余儀なくされていた地域活動が本格的に動き始めるとともに、それまで伏在していた地域の課題がコロナ禍を経て顕在化していったように感じています。

また、コロナ禍を通じて、大学の役割や大学での学びの意味が、大きく、深く問われました。さまざまな人びととの協働によって、知を生み出し、共有・継承・発展させていく拠点としての大学が、その役割を実直に果たしていくことが地域や社会にとってもますます必要とされています。微力ながら、まちづくり研究センターもその一端を担っていきたいと思います。

まちづくり研究センター長　岩舘　豊

目　次

巻頭あいさつ

【巻頭論文】サードプレイスとデモクラシー …… 1

「まちラボ」とは …… 2

［学生アンケート］　まちラボってどんなとこ？…… 3

■まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ …… 5

1．エコロジーキャンパス・プロジェクト 2024 …… 6

2．地域内のふれあいプロジェクト：まちなかコミュニティ …… 6

3．文京まちあるきコースづくり「文京区の魅力の発見と発信」 …… 7

4．向丘・白山コミュニティフェスプロジェクト …… 7

5．地域密着ショートムービー「ねこっちさんビデオ通信」 …… 8

プロジェクト演習 番外編／まちラボプロジェクト演習の情景 …… 8

■まちラボプロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ …… 9

1．地球温暖化の抑制に向けて　～環境意識とライフスタイルの変革…… 10

2．若者を取り巻く現状と人間関係の構築と課題 …… 10

3．つながりで共創する四谷のシビックプライド
—地域誌・町内会・スポーツを介したニーズと価値の可視化…… 11

4．在日外国人コミュニティ・サステナブルファッション・アニメと聖地巡礼
—サステナブルな多文化共生社会に向けて…… 11

■まちラボ研究活動・地域活動 …… 12

1．学生支援担当者連絡会議（旧 地域ニーズの会）…… 13

2．地域と繋がる掲示板 …… 13

3．Sorting Art プロジェクト …… 14

4．移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」 …… 14

5．ぶんぶん新聞／ふじみ野市内イベントへの参加 …… 15

6．郊外論再審——都市化と地域社会研究会 …… 16

まちラボカレンダー（2024年度　まちラボ本郷の活用状況）…… 17

サードプレイスとデモクラシー

まちづくり研究センター長　岩舘　豊

「サードプレイス Third Place」という概念は、まちづくりや地域活動でも多く用いられていて、「自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地のいい居場所」は「ストレスの多い現代社会において、ストレスから解放され憩うことのできる場所」（いずれも web サイト Ideas for good での紹介）といった意味合いで使われることが多い。しかし、こうした「居心地の良さ」が強調される一方で、「サードプレイス」が持つとされた、草の根のデモクラシーを下支えする機能について言及されることは多くない。

「サードプレイス」を最初に提唱したレイ・オルデンバーグは、都市社会学者として、1980 年代のアメリカ社会が抱えていた問題に向き合う中で、その解決に向けた一つの提案をする。それがサードプレイスという「インフォーマルな公共生活の中核的環境」であり、オルデンバーグはその多様な機能を論じた。

オルデンバーグによれば、アメリカ社会における人々の日常生活が「自宅」と「職場」とをただ往復するだけとなっており、サードプレイスが失われる一方、日々の余暇や楽しみは「消費すること」へと切り詰められている。私的（プライベート）な「家」の生活に閉じ込められたアメリカ市民は、「地元で集団で質問し、抗議し、考えを探り、補足して意見をまとめる機会」を失っていく。

オルデンバーグが当時問題にしていたのは、各家庭に浸透したテレビから流れてくる一方通行の情報が影響力を拡大している状況だった。そして、こうした状況を生み出しているのは、独裁的な統治者でも巨大メディアでもなく、経済的利潤と合理性と効率性をひたすら追求していく、建築技術、土地利用規制条例、そして都市計画の組み合わせによる都市空間のあり方だった。

こうした状況に対し、「酒場」「パブ」「カフェ」のような、気軽に集まることができて、地元・地域の問題を知り、議論する役割を持ち、場所として民主主義の政治プロセスへの直接的な草の根型の参加を可能にしていたというのが、オルデンバーグによる「サードプレイス」論のポイントでもあった。懐の深いサードプレイスがもたらすのは、人びとが社会的な違いを越えて、互いに意見を交換することができる「自由な集会」なのである。このサードプレイスが持つ草の根の政治参加を再活性化させたり回復させたりする機能は、しばしば見落とされがちであり、かつ現在においてそのまま踏襲できるかは慎重な吟味が必要とはいえ、社会的孤立や分断、新しいメディアやテクノロジーが台頭する中で、「集まること」の意味を巡って思考を喚起する、今なお大事な論点であると思う。

その一方で、オルデンバーグのサードプレイス論自体が見落としていたものがあることにも注意が必要である。藤原辰史は、「常連」が生み出す排除性、あるいは排除される側の空間が形成されてきた歴史には、「きわめて鈍感」であると指摘している。（藤原 2020: 178）。

藤原は、オルデンバーグが見落としている「サードプレイス」の機能として、「排除的な社会をほぐしていく機能」をあげる。なぜなら「サードプレイス」とは「気兼ねが必要ない」こと、つまり、そこに出入りするのにいちいちイニシエーションがいらないところがポイントだからである（ibid 175-8）。そこは、何の条件も対価も必要とされずに、お金がなくても、勉強や仕事をしていてもしていなくても、そこに居ることが許容され、食べることや、安心して過ごすこと、寒さや暑さから守られることが保障され、自由に過ごすことができる場所である。

サードプレイスが持つ、デモクラシーをアクティベイトする機能と、排除的な社会をほぐしていく機能、いずれも実現することは簡単なことではない。また、この両者をどう結びつけていくかは困難な道筋でもある。しかし、この二つの機能を見落とすことなく、手放すことなく、この概念をアップデートしていくことが、研究としても実践としても求められているように思う。

藤原辰史 , 2020,『縁食論――孤食と共食のあいだ』ミシマ社 .
Oldenburg, Ray, 1989, The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops,Book Store, Bars, Hair Salons and other Hangouts at the Heart of a Community. = 2013, 忠平美幸訳『サードプレイス』みすず書房 .
Ideas for good, 用語集「サードプレイス」, ハーチ株式会社 , https://ideasforgood.jp/glossary/third-place/

「まちラボ」とは

「まちラボ」の理念と目的

「まちラボ」とは、「まちづくり研究センター」（英語表記は Social Design Center）の略で、本学の建学の精神「自立と共生」に基づく共生社会の構築を目指す「実験空間」である。

この空間は、本学人間学部 コミュニケーション社会学科の基盤となる教育理念を備えた「教育・研究の場（研究所）」でもある。教育は、授業、地域で行うゼミの課外活動やボランティア活動の中で展開され、教員が中心となる研究活動へと発展していく。

「まちラボ」とは

「まちづくり研究センター（まちラボ）」は、2019 年 4 月、社会の課題に取り組む産官学民連携型学習を活発化するために開設された。

本郷・ふじみ野両キャンパスに拠点があり、ふじみ野では郊外型（1-2 年生）、本郷では都市型（3-4 年生）の社会問題をテーマに取り組む。学生たちは、大学内では見えてこない実社会の課題に対し、地域や企業、行政の方々と協働しながら取り組んでいくのである。

ふじみ野キャンパスでは、ボランティアとしての活動を通じて、課題解決に向けた基礎力の育成強化を図る。本郷キャンパスでは、まちラボプロジェクト演習、まちラボプロジェクト実習というプロジェクト型学習を軸に、多様なテーマから課題を選び、理論と実践を相互に学習しながら、新たな社会の形成に必要な仕組みを創造する力を養っていく。

全学部で活用されるまちラボ

まちラボ本郷は、全学部のプロジェクト型授業の場としても活用されている。外国語学部では少人数制の初年次セミナーや韓国語の授業を、経営学部では初年次ラボやゼミ単位でのキッチンを活用したプロジェクトを、保健医療技術学部では国家試験に向けた試験対策学習の場としての利用など、活用内容も多様である。

授業の空き時間には、授業課題に取り組む学生、学生どうしの歓談、ボードゲームを楽しむ様子など、家庭とも授業とも違う第３の居場所としての利用が見られる。

活用方法については、まだまだ多様な可能性を秘めたサードプレイスなのである。

まちづくり研究センター 担当教職員

■まちラボ本郷運営委員会
センター長：人間学部コミュニケーション社会学科　岩舘豊
運営委員：経営学部　川越 仁恵　外国語学部　赤松 淳子
人間学部人間福祉学科　青木 通　保健医療技術学部　米澤 純子
アドバイザー：島田 昌和理事長
研究員：森下 英美子、中潟 亮兵

■まちラボふじみ野運営委員会
副センター長：人間学部児童発達学科　菖蒲 澤侑
運営委員：コミュニケ―ション社会学科　中山 智晴
研究員：栗原 真史
事務担当：渋谷 由佳、髙橋 直美

[学生アンケート]

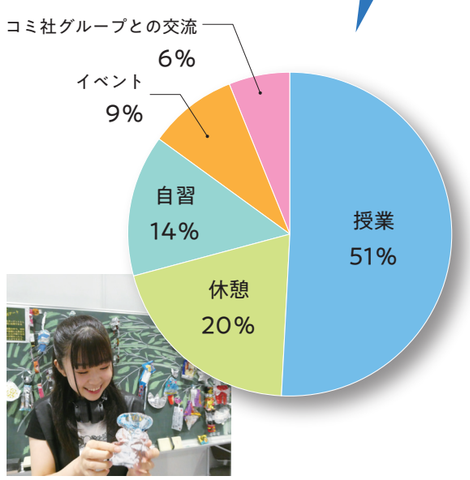
まちラボって どんなとこ？

まちラボの理念にあるように、まちラボ本郷は地域とつながる「実験空間」として位置づけられている。

そのため、まちラボ本郷にはキッチンがあり、おでん屋さんからいただいた家具類や福島の間伐材で作られたテーブル、多機能な電子ホワイトボードなどが置かれてある。急に文具やパソコンが必要になったとき、カウンター内の職員に聞くと、「あるよ！」と貸してくれる。ルールを守れば、学生もそれらの設備を自由に活用できるのが、まちラボ本郷である。

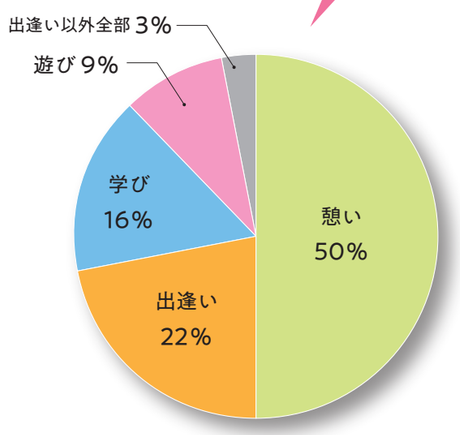
まちラボ本郷に来ていた学生たちに、「まちラボってどんなとこ？」を聞いたアンケートを実施してみた。3 年生を中心とした 32 名（人間学部 27 名、他学部 5 名）からの回答をまとめて、以下に紹介する。

❶まちラボの利用目的は？



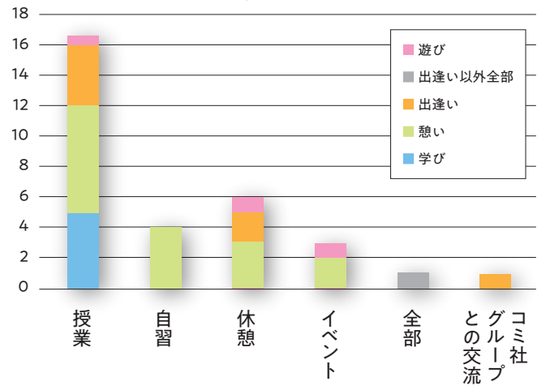
この質問に対する回答では、「授業」や「自習」など学業に直結して訪れた学生が 65%であり、「休憩」や「イベント」などリラックスや交流の場として訪れる学生は 35%であった。まちラボの利用目的は学びの場が多いことがわかった。

❷まちラボはどんなイメージ？



この質問に対する回答では、「憩い」、「出逢い」、「遊び」といったリラックスや交流のイメージを合わせると 81%となり、学業のイメージ「学び」の 12% を大きく引き離していた。

❸まちラボ利用目的と まちラボのイメージのギャップ



まちラボの利用目的とまちラボのイメージをクロス集計してみると、授業のために来ている学生が持つイメージは、「学び」が 29% にとどまり、「憩い」・「出会い」・「遊び」を合わせて 71%となった。さらに自習しに来た学生のイメージは、「憩い」が 100% となっている。

授業や自習に来ているはずなのに、学び以外のイメージが多数を占めるのは何故だろう？

この理由は、授業では内容が大きく関わっていると考えられる。まちラボで行われる授業の多くは、PBL（Project Based Larning）と呼ばれる少人数制のプロジェクト型授業である。主なテーマを教員が示し、学生たちはそのテーマの中に課題を見出し、解決するための企画を立案し、実践するのである。

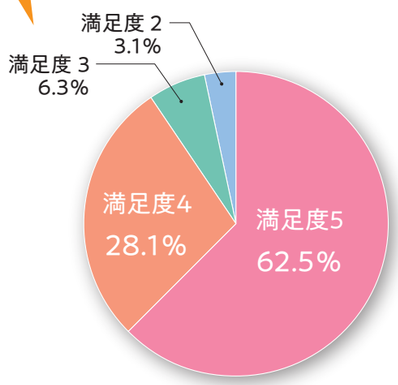
その例として、文京区は子どもたちが安全に遊ぶことのできる場所が少なく、地域のつながりが希薄であることを課題とし、本郷通りに面した本学にて、大人も子どもも楽しめる場を提供するイベントの企画がある。今年度は、まちラボを会場として、授業企画イベントが何度も開催された。

このような企画では、学生たちが自ら楽しいと思える内容を企画に盛り込んでいるようだ。子どもたちを対象とした企画では、遊びの要素も欠かせない。それが、「出逢い」、「遊び」、「憩い」に繋がったのではないだろうか。

学生の様子を見ていると、次々に出てくる問題をひとつひとつ解決していくのが、この授業の特徴のようだ。そして、たくさん悩んで考え、知識や経験のある人に相談し、解決策を見出した学生たちは、最高の笑顔を見せてくれる。このアンケートの実施時期が、ちょうどそんな時期であったことも、授業で来たのに学び以外のイメージを持った理由かもしれない。

自習に来たまちラボに「憩い」というイメージを持つ学生たちは、保健医療技術学部の国家試験対策の勉強で来た学生たちであった。まちラボの空間が落ち着くということで、機会を見ては勉強に来ている。木のテーブルがお気に入りで、オープンな環境のもう一つの部屋で授業が行われていても、気にならないとのことだった。

❹まちラボの満足度



以上の結果の総合的評価にあたるまちラボの満足度を 5 段階評価で示してもらったところ、満足度 5 と 4 を合わせて 90.6%となり、満足度の高さがうかがえる。

❺まちラボの魅力

アンケートの自由記述からは、以下のような魅力が見いだされた。

●学びと成長の場

まちラボでの授業は、知識を深めるだけでなく、協働力や発信力を養われるため、主体的に学び、仲間と共に成長できる場となっている。

●人とつながる「出逢い」の場

「まちラボのおかげでたくさんの人と出会うことができた」「とりあえず集まれる居場所」という声により、まちラボには出逢いの場という機能があることを発見。

● 学業と息抜きのバランスが取れる空間

大学生活では、授業や課題に取り組む時間とリラックスする時間の両方が大切であり、セカンドプレイスである大学内にサードプレイスまちラボがあることに効果を確認。

●夢を形にできる「実践の場」

まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ
（通年）

人間学部コミュニケーション社会学科３年生の必修授業。
地域社会を教育・研究のフィールドと捉え、
社会問題解決へ向けての地域再生の要となるプランナーや
コーディネーターの能力を有する人材の育成を目的としている。

プロジェクト演習 報告書１
エコロジーキャンパス・プロジェクト 2024（中山プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書２
地域内のふれあいプロジェクト：まちなかコミュニティ（青木プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書３
文京まちあるきコースづくり「文京区の魅力の発見と発信」（貫井プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書４
向丘・白山コミュニティフェスプロジェクト（岩舘プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書５
地域密着ショートムービー「ねこっちさんビデオ通信」（岩崎プロジェクト）

プロジェクト演習 番外編
まちラボプロジェクト演習の情景（まちラボ本郷）

プロジェクト演習報告書１ ── まちラボ本郷 ──
エコロジーキャンパス・プロジェクト 2024

■**演習担当教員、学生**：中山 智晴　学生５名　　■**連携先**：白山東児童館

■**プロジェクト概要**

現在、世界各国では、大量の資源やエネルギーを使用し、大量の製品を生み出し、消費して廃棄することが主流である。そこで、特に学内のプラスチックごみに注目し、リサイクルやアップサイクルを推進し廃棄物の減量化に取り組むとともに、廃材や焼却処分の際に発生する大量のエネルギーを削減することで、環境問題改善の試みを行うプロジェクトを実施した。

大学生を対象に、SDGs 目標 12「つくる責任　つかう責任」の内容や現況を学ぶ学習会の開催、児童館での子どもに対する廃棄物を利用したアップサイクルグッズを作成する環境活動の中で、消費者としての私たちが「つかう責任」への意識を向上させ、ライフスタイルを変革していこうとする若者を増やしていくことで社会全体の意識を変えていこうとするものである。

アップサイクルイベントでは、ペットボトルのキャップを活用したキーホルダーづくりやペットボトルのペンケースづくり講座を行い、好評をいただいた。

2024年8月9日開催　文京区クールアースフェアへ出展

クールアースフェアでのアップサイクル商品作成

プロジェクト演習報告書２ ── まちラボ本郷 ──
地域内のふれあいプロジェクト：まちなかコミュニティ

■**演習担当教員**：青木 通、学生 10 名

■**プロジェクト概要**

地域内のつながりを作るきっかけづくりとして、イベント型の社会貢献プロジェクトを実践した。当初は江戸川橋駅近くにある Café が舞台であったが、諸事情によりまちラボ開催に変更した。

検討段階では、親子を対象にした「アナログゲーム」「ボードゲーム喫茶」「宝探しができる喫茶店」「工芸品作り」「子ども服リサイクル」「子どもの Café 就労体験」「不用品リメイク」「インターネットラジオ放送」などがあがり実現性について協議を重ねた。

12 月 14 日に「親子でアナログゲームを楽しむ」というテーマのもとでイベントを実施した。結果として 4 組 10 名の参加があり、それぞれサッカーゲームや紙相撲を楽しんだ。作る過程も計画していたが、実際的には試作品として用意していたゲームで遊ぶケースがほとんどであった。しかしながら、どの親子も熱中する姿がみられ、満足したひと時を過ごし、明るく笑顔で退室する光景が印象的であった。

ゲリライベント的な性格はあったが、いつもの通り道の一角で何かをやっているという意外性と一定の時間を過ごせるという面白さは、特定の場所（今回は「まちラボ」）を拠点化するための示唆を得たといえる。

イベント開始まであとわずか

プロジェクトの様子はコチラから

プロジェクト演習報告書３ ── まちラボ本郷 ──　文京まちあるきコースづくり「文京区の魅力の発見と発信」

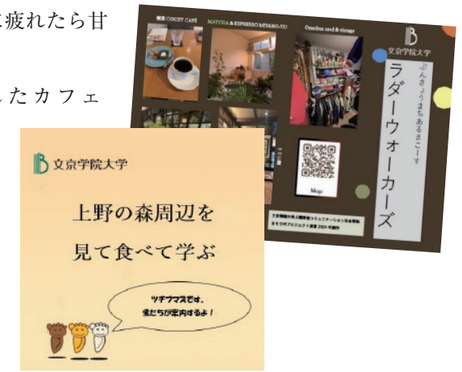
■**演習担当教員、学生**：貫井 万里、学生 10 名

■**連携先**：合同会社 Vanta（地図製作）、MATCHA&ESPRESSO MIYANO-YU

◀「上野の森周辺を見て食べて学ぶ」コースのメンバーが考案したキャラクター“ツチフマズ”

■**プロジェクト概要**

「文京まちあるきコースづくり――文京区の魅力の発信と発見」プロジェクトでは、文京学院大学周辺の喫茶店を巡る「ラダーウォーカーズ」と「上野の森周辺を見て食べて学ぶ」コースの２つのパンフレットを作成した。気ままにはしご歩きをする人を意味する「ラダーウォーカーズ」は、大人の隠れ家をテーマにレトロで居心地の良いお店を中心に紹介している。「上野の森周辺を見て食べて学ぶ」コースは博物館めぐりをしつつ、昼食には森鴎外や夏目漱石御用達の洋食屋「上野精養軒」で文豪の気分を味わい、散歩に疲れたら甘味処「あんみつみはし」に寄る、楽しんで学べるコースを提案した。



2025 年 1 月 16 日（木）にかつての銭湯をリノベーションしたカフェ「MATCHA&ESPRESSO MIYANO-YU」でワークショップを開催した。「文京まち歩きコース」プロジェクトの紹介後、文京学院大学異文化理解（貫井）ゼミの４年生によって「アニメ聖地巡礼とオーバーツーリズム」について報告がなされた。「オーバーツーリズムの解決法」や「文京区を舞台にしたコンテンツ構想」などについて参加者がグループ毎に分かれてくつろいだ雰囲気の中で活発に議論をした。

プロジェクト演習報告書４ ── まちラボ本郷 ──　向丘・白山コミュニティフェスプロジェクト

■**演習担当教員、学生**：岩舘 豊、学生 11 名　■**連携先**：合同会社 IRORI、mama made、株式会社バンソウ

■**プロジェクト概要**

本プロジェクトでは、都市における日常の小さなサードプレイスづくりとして、地域イベント「向丘・白山コミュニティフェス」を開催した。チームは、全体を統括する企画・運営部門、地域との連携を行う営業・地域連携部門、発信を担当する広報・集客部門、学生コンテンツを担当するコンテンツ部門に分かれ、７月、10 月、12 月の３回コミュニティフェスを行った。会場も、まちラボ本郷だけでなく、B's Dining や B's カフェなど、学内の複数地点へと広域展開した。昨年からの継続プロジェクトとしてスタートし、毎回のように遅くまで学生たちが残って準備と議論を重ねていった。そうした中で、「みんなの“あき地”」というコンセプトにたどりついたこと、そしてそのコンセプトを自分たちなりに具現化することができたことが今年度の大きな成果だった。さらなる発展と深化を期待したい。

第3回コミュニティフェスの全体マップ

プロジェクト演習報告書５ ── まちラボ本郷 ──　地域密着ショートムービー「ねこっちさんビデオ通信」

■**演習担当教員、学生**：岩﨑 正昭、学生７名

■**連携先**：文京メディア・ブリッジ合同会社（取材対象紹介）、株式会社ファーストショット（映像技術会社）

■**プロジェクト概要**

根津、向丘、千駄木、白山を『ねこっちさん』と名付け、地域の人々とかかわり、未来に向けた活動状況などを映像に記録する。本年度制作した作品は２本。１本目は弁護士の北永久さんを取材。北さんは地域活動を行っている団体『文京ベース』を主催。食材を配布する『フードパントリー』活動を行い、『子ども食堂』、『思い出横丁』という祭りを主催。２本目は「まちラボプロジェクト演習」の中から青木先生のプロジェクトを取材。アナログゲームをまちラボ教室に作り、子どもたちを招くイベント。学生が運営・宣伝・ゲームの作成などをドキュメントしていく。授業では、この地域を調査し、台本を作成、撮影、編集して作品を仕上げる。ディレクター、カメラマン、リポーターなどの役割を決めてチームで行われる。作品作りはプロの映像制作者に指導を受け、基本的な撮影・編集技術を身につけ、10 分ほどの作品に仕上げる。出来上がった作品は大学のホームページで発表する。

インタビュー撮影の様子

北永久氏へのインタビュー（上）と青木プロジェクトの学生にインタビュー（下）

プロジェクトの様子はコチラから

プロジェクト演習 番外編　まちラボプロジェクト演習の情景

まちラボ研究員　森下 英美子（写真右から２番目）

まちラボプロジェクト演習も６年目、教員の指導もこなれた様子で、学生の自主性を求める展開がみられた。

まちラボプロジェクトならではの初めての体験は、アポイントメントの電話である。何を聞いたらよいかを箇条書きにして、いざ電話をかけても担当者が不在。折れてしまいそうな心を抱えつつ何度も電話をかけたが、最終的に先方の都合でキャンセルというプロジェクトがあった。その一方で、直接出版社を訪問して説明し、イベントに必要な本を借りてきたプロジェクトもあった。どちらの学生もその後はけろりとしていたことに、よい体験であったことがうかがわれる。

イベント２日前に教員から「もうやめてしまえ！」と言われたプロジェクトでは、そのまま引き下がれない学生たちがまちラボに駆け込んできた。話を聞くと、準備が足りないと言われたとのこと。足りない準備とは、リハーサルと集客のための広報だった。リハーサルは残りわずかな時間で進め、広報は他のプロジェクト学生からの協力があり、地域のネットワークに流すことができた。当日は親子連れの参加があり、教員を含めたプロジェクトメンバーのうれしそうな顔を見ることができた。という様子は映像制作のプロジェクトが撮影し、最終報告会で披露された。

社会人に必要なスキルとプロジェクト間の連携、これがまちラボプロジェクト演習６年目の姿である。

まちラボプロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ
（通年）

人間学部コミュニケーション社会学科４年生の選択授業。
社会問題の改善のために学生自身が問題を提起し、その改善に向けて立案し、
組織体制を構築しながらプロジェクトを進めていく実践的講義。
本授業は「まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容を踏まえたもので、プロジェクト成果を社会へ還元することを最終目的としている。

プロジェクト実習 報告書１
地球温暖化の抑制に向けて　～環境意識とライフスタイルの変革～（中山プロジェクト）

プロジェクト実習 報告書２
若者を取り巻く現状と人間関係の構築と課題（古市プロジェクト）

プロジェクト実習 報告書３
つながりで共創する四谷のシビックプライド
――地域誌・町内会・スポーツを介したニーズと価値の可視化（岩舘プロジェクト）

プロジェクト実習 報告書４
在日外国人コミュニティ・サステナブルファッション・アニメと聖地巡礼
――サステナブルな多文化共生社会に向けて（貫井プロジェクト）

プロジェクト実習報告書１ ── まちラボ本郷 ──
地球温暖化の抑制に向けて ～環境意識とライフスタイルの変革～

■**実習担当教員、学生**：中山 智晴　学生 11 名　■**連携先**：白山東児童館

■**プロジェクト概要**

本研究は、地球規模の環境問題に対し一人一人が興味・関心を持ち、そして、自分たちのライフスタイルのどこに地球温暖化を進展させる原因があるのかを理解し、そして CO_2 排出を抑制させるための基礎資料を得ること、ならびに、CO_2 を吸収する取り組み、具体的には海洋生態系を保全・改善することで吸収する力を増やしていく取り組みの推進に焦点を当て研究を進めた。 はじめに、大学生に焦点を当て環境意識調査を実施することにより、CO_2 排出源であるライフスタイルの課題を解明した。一方、CO_2 吸収源の生態系の現状と課題を明らかにするとともに、ブルーカーボン生態系を保全する活動に参加し、大学生が海洋保全に興味を示す活動を考察した。最終的には、環境イベント等への出展、児童館での子どもへの環境教育などへ参加することにより、広く地域や大学生の意識変容に効果的な活動を展開してきた。

2024年7月11日
文京区　白山東児童館での子ども環境教育活動

2024年11月９日　文京区エコリサイクルフェアに出展

プロジェクト実習報告書２ ── まちラボ本郷 ──
若者を取り巻く現状と人間関係の構築と課題

■**実習担当教員**：古市 太郎、学生６名

■**プロジェクト概要**

近年、経済や教育などの格差、大学生の中退、若者の働き方の変化、無縁社会化、高齢化・少子化、多文化社会・ジェンダーなどの様々な社会問題が起こっている。また、コロナウイルスなどの影響で、人と直接関わる機会が減少し、以前よりも人々のつながりが希薄になってしまっている。このような社会状況に対し、「人と人とのつながりを構築するには」ということをテーマとし、特に「若者の中でも大学生のつながりを構築する」という課題に対し、私たちのゼミナールは取り組んだ。

第一章では「若者をとりまく経済社会状況」第一節「若者をとりまく格差」、第二節「若者の働き方と労働改革」、第三節「大学生における関係の希薄化」について、第二章では「地域コミュニティの形成と課題」第一節「若者をとりまく少子化・晩婚化する社会」、第二節「無縁化しつつある社会」、第三節「多様化する地域コミュニティ」について、先行研究に取り組んだ。

こうした各節のテーマの根底には「人間関係の希薄化や地域コミュニティの衰退」があり、この成果を基に、第三章「価値観の共有による学内コミュニティ」では、イベントやワークショップを通じて、若者における「人間関係の希薄化や地域コミュニティの衰退」を検討し、その成果を考察した。

2024年6月27日 「かき氷をきっかけとした集い」

プロジェクト実習報告書３ ── まちラボ本郷 ──
つながりで共創する四谷のシビックプライド ──地域誌・町内会・スポーツを介したニーズと価値の可視化

■**実習担当教員、学生**：岩舘 豊　学生 11 名

■**連携先**：地域誌「四谷」編集委員会、四谷三栄町町会、クリアソン新宿

■**プロジェクト概要**

本プロジェクトでは、新宿区四谷における地域誌や町内会、スポーツを媒介として、シビックプライド（地域に対する住民の誇りや愛着）を「共創」していくための手がかりを探究した。具体的なアクションとしては、1988 年から続く地域誌『四谷』編集委員会と連携しながら、3 号にわたって記事を作成した。また、四谷三栄町町会と連携し、11 月 3 日に三栄公園での「防災縁日」を企画・運営した。そして、新宿に拠点を置くサッカーチーム・クリアソン新宿と連携し、四谷サッカーフェスティバルへ参加した。シビックプライドとは、それまで積み重ねられたものが「継承」されていくものではなく、誰かが勝手に「創造」するものでもなく、年代や立場の異なるものが協力することで新たにされていくという意味で「共創」され続けていくものではないか。このプロジェクトが見出した「共創」のかたちは、まだ萌芽的なものではあるが、大事な知見であると思う。

2024年11月3日　防災縁日の様子

プロジェクト実習報告書４ ── まちラボ本郷 ──
在日外国人コミュニティ・サステナブルファッション・アニメと聖地巡礼 ──サステナブルな多文化共生社会に向けて

■**実習担当教員、学生**：貫井 万里、学生 11 名　■**連携先**：文京学院大学 GSI グループ

■**プロジェクト概要**

異文化理解ゼミでは「在日外国人コミュニティ」、「サステナブルファッション」、「アニメと聖地巡礼」の 3 つのテーマでグループに分かれ、インタビューやアンケート調査を行った。そこで発見した課題を解決するために 2 つのイベントを実施した。9 月 29 日に文京学院大学の留学生を対象に実施した「Let's Go to Akihabara!」は、オーバーツーリズム対策として、「サステナブルな聖地巡礼（秋葉原でアニメ聖地巡礼をしながらゴミを拾って、聖地を浄める）」を行う内容である。当日は雨天のため、地元団体が運営するごみ拾いイベントは休止となったが、参加した留学生は観光とゴミ拾いの組み合わせに興味を持っていた。10 月 19 日に開催した「異国お菓子フェスティバル」は、11 カ国のお菓子の国名を当ててもらうクイズイベントである。参加者からは、「外国の知識をたくさん知れてよかった」「様々な国の文化に触れることができた」という声が挙げられた。

ゴミ拾いイベントの集合写真（2024年9月15日撮影）

アニメイト秋葉原店にて（2024年9月29日撮影）

異国お菓子フェスティバルの様子（2024年10月19日撮影）

まちラボ研究活動・地域活動

まちづくり研究センターにおける自主的な研究・地域活動。

教職員が企画者となり、大学や地域の中で展開する活動。

まちラボふじみ野では、学生が中心となって地域に出ていく機会が増えてきた。

活動報告書１
学生支援担当者連絡会議（旧 地域ニーズの会）（岩舘・荻原・森下プロジェクト）

活動報告書２
地域と繋がる掲示板（森下プロジェクト）

活動報告書３
Sorting Art プロジェクト（森下・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書４
移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」（栗原・岩舘・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書５
ぶんぶん新聞／ふじみ野市内イベントへの参加（栗原・岩舘・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書６
郊外論再審 ― 都市化と地域社会研究会（栗原・岩舘プロジェクト）

活動報告書 1 ── まちラボ本郷 ──　学生支援担当者連絡会議（旧　地域ニーズの会）

■**担当**：岩舘 豊、荻原 道生（学生支援グループ）、森下 英美子

■**プロジェクト概要**

文京区内各大学の学生支援担当者のネットワーク形成を図るとともに大学による地域連携、および学生の社会貢献活動の推進を目的とした「地域ニーズの会」は、今年度より文京区社会福祉協議会が主催することとなった。2 ヶ月に 1 度のペースで、各大学を会場として開催されている。2025 年 3 月 10 日には「令和 6 年度 文京区の大学に通う学生による地域活動報告会」が日本女子大学で開催され、文京学院大学まちづくり研究センターからも学生が報告する。

2024年7月29日　会議の後、まちラボにてかき氷を楽しむ

〈参加メンバーの声〉　ゆるやかな繋がりを大切に　　文京学院大学 学生支援グループ　荻原 道生

学生支援担当のスタッフとして「地域ニーズの会」に参加して 3 年目を迎える。本会には地域連携･社会連携･ボランティアセンターからだけではなく、地域連携に取り組む、または関心のある様々な部署のスタッフが集まり、課題や情報を共有している。部署や肩書にとらわれない自由なゆるやかな繋がりの中で連携を図ることができるのが特長である。大学の現場はややもすると縦割りで業務を進めることが多いが、同じ課題感を持つスタッフが部署に関わらず情報を共有し、それぞれの資源を提供していくことは学内での課題解決のモデルとなるあり方だと考える。また、このゆるやかさこそ本会を継続させていくポイントであり、大学間をつなげるハブとしての役割をはたしている文京区「地域連携ステーション」の存在は非常に大きい。他大学様の SDGs、防災、銭湯、被災地支援など多様なテーマでの取り組みについて知ることは、大学職員として個人的な学びの場にもなるが、本学の立ち位置や課題を客観的に捉えることができるとともに、本会で生まれた人的交流はいざという時頼りになる存在であり、本学に還元できる貴重な機会となっている。

活動報告書 2 ── まちラボ本郷 ──　地域と繋がる掲示板

■**担当**：森下 英美子

■**プロジェクト概要**

まちラボ本郷の白いフェンスの向こう側には、歩道を通る人たちやバスを待つ人たちが目にすることのできる「まちラボの掲示板」が設置されている。

昨年度に引き続き、まちラボではイベントが多数開催され、そのたびにポスターが掲示された。最も多く掲示されたのは、まちラボプロジェクト演習岩舘プロジェクトの「コミュニティフェス」であり、アートが得意な学生によるかわいいイラストつきのポスターが、各回のイベントに彩りを添えた。

緑の中の掲示板

毎月花や虫､鳥などのキャンパス内の自然を紹介する「まちラボ自然だより」は、自然が好きな職員がキャンパス内の自然について写真と短い解説でつづった掲示を継続している。

春の中庭では、日差しに誘われて地面に出てきたクロオオアリの姿やサクランボを待つヒヨドリの姿が掲示された。秋には、本郷通りのイチョウの紅葉が 1 本 1 本違うのは、日の当たる時間の差によるものだということが紹介された。また、都内ではめずらしいハシボソガラスが何度か 2 羽で姿を見せるなど、キャンパス周辺の自然の変化も感じられた。

活動報告書 3 ── まちラボ本郷 ── ── まちラボふじみ野 ──　Sorting Art プロジェクト

■**担当**：森下 英美子、菖蒲澤 侑

■**プロジェクト概要**

2021 年度から取り組む Sorting Art は、分別を意識した工作についての実践と研究として、今年度も授業での実践を継続している。

授業での実践は、2024 年 6 月 25 日に自然環境保護論、11 月 26 日に環境教育論の授業において、コミュニケーション社会学科の学生に対して七夕飾り、クリスマス飾りを作る実践を行った。基本的な流れは、アート制作材料に分別済みのリサイクル材料を適用し、一定期間展示後にリサイクル資源として回収するというものである。

昨年の「結局ゴミになるのではないか」という学生からのリアクションを反省し、資源化することを丁寧に説明した後に制作に臨んだところ、事後アンケートから“ゴミ”発言がほとんどなくなった。これにより、教育の現場では、既知のことであっても繰り返し説明を行うことに効果があることが確認された。また、資源化に向けた回収に対する“資源ゴミ”という名称にも問題があり、“ゴミ”＝“不要な汚いもの”というイメージが、資源化を進める上での妨げとなっている可能性も考えられる。その点に対して、アートや工作の観点から手立てを提示し得ると考える。

現在、昨年度の学会発表に続き、論文執筆に取り組んでいるところである。

クリスマス飾りの展示

“ゴミ”のイメージを変える作品

活動報告書 4 ── まちラボふじみ野 ──　移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」

■**担当**：岩舘 豊、菖蒲澤 侑、栗原 真史

■**連携先**：大井ショッピング商店会、亀居中央商店会、地域活動サークルぷんぷん、ふじみ野市産業振興課

■**プロジェクト概要**

地域における子どもの居場所づくりとして、「地域活動サークルぷんぷん」と連携し、大井ショッピング商店会にある空き店舗を活用した駄菓子屋「ぶんぶん」を、月 2 回の頻度で開催した。活動を継続することで「常連」も形成され、日常的なサードプレイスとして、地域内に浸透・認知されている。2023 年度には、こうした日常的な活動を基盤に、2024 年 3 月には商店街と公園「よってこ広場」を会場とした地域イベント「まちフェス in 大井」を開催した。2024 年度も 2025 年 3 月に開催すべく準備を進めている。

2024年3月　まちフェスの様子

活動報告書 5
── まちラボふじみ野 ──

ぶんぶん新聞／ふじみ野市内イベントへの参加

ぶんぶん新聞

■**担当**：菖蒲澤 侑、岩舘 豊、栗原 真史　■**連携先**：埼玉県立ふじみ野高等学校生徒会

■**プロジェクト概要**

まちラボふじみ野では地域新聞「ぶんぶん新聞」を学生主体で発行している。2024 年度には、第 5 号を作成した。活動紹介、ふじみ野高等学校生徒会による夏休みイベントレビュー等を掲載しており、まちラボふじみ野の Instagram とも連携してひらがな版を発信する工夫も加えた。新聞づくりを重ねてきたことにより、編集やデザインに慣れ、記事執筆や新聞発行へのハードルも下がっている様子である。情報発信について、実践を通して学生が具体的な力を身に付け、伸ばす機会となっている。

第 5 号

ふじみ野市内イベントへの参加

■**担当**：菖蒲澤 侑、岩舘 豊、栗原 真史

■**連携先**：ふじみ野市産業振興課・環境課、おおせのとおり、ふじみ野市商工会、医療生協さいたま

■**プロジェクト概要**

2024 年度は、エコラボフェスタ（2024 年 5 月 18 日／ふじみ野市・三芳町環境センターにて）、産業まつり（2024 年 11 月 3 日／福岡中央公園にて）、お～い健康まつり (2024 年 11 月 24 日／医療生協さいたま大井協同診療所にて) の 3 事業にそれぞれの企画趣旨に合わせた企画を用意して参加した。また七夕まつり（2024 年 8 月 3 日・4 日／上福岡駅周辺）には七夕飾りを出展した。エコラボフェスタでは、卒業生の事業に学生が参加し交流がある逢瀬町で採取した竹を使用し、竹ぽっくりを作って遊ぶ企画を実施した。環境について考えるというイベントの主旨をふまえたものであり、SDGs に関連する学生の取り組みとして取材を受けた。また、産業まつりでは昨年度に続き古着を用いたリースづくり、お～い健康まつりでは子どもが楽しめるブースをということで駄菓子屋と工作の企画を実施した。七夕飾り作りでは食堂前において短冊を書くブースを展開し、ふじみ野キャンパスの学生の参与も促した。これらのイベント参加を通して、人が集まり楽しむ空間の意義を体感することができる。また、イベントを企画・運営することに関わり、交流や楽しさを実現する一端に触れ、まちづくりを実地で学ぶことに繋がっているだろう。

エコラボフェスタ：運営に奮闘する学生と取材

エコラボフェスタ：逢瀬町で竹の加工をする学生

産業まつり：子どものリース作り補助

活動報告書 6
── まちラボふじみ野 ──

郊外論再審──都市化と地域社会研究会

■**担当**：岩舘 豊、栗原 真史

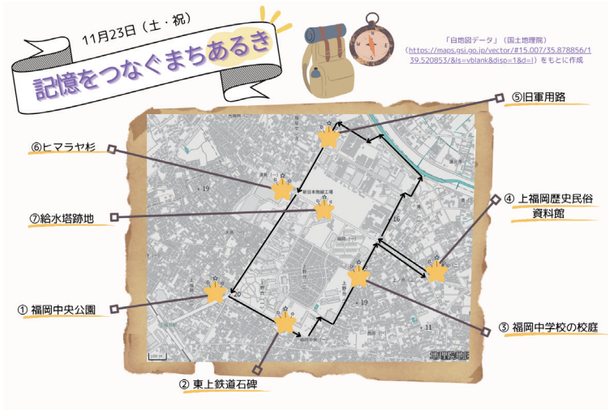
■**連携先**：<火工廠>語り継ぐ会、ふじみ野市社会教育課、上福岡歴史民俗資料館

■**プロジェクト概要**

本プロジェクトでは、郊外・ふじみ野の地域史を捉え直すため、二つの活動を展開した。

第一に、昨年度からの継続企画として、上福岡にあった旧軍用地「旧火工廠」のまちあるきである。今回は、昨年のまちあるきに参加した学生が主体となって企画・運営を行った。2024 年 11 月 23 日、「記憶をつなぐまちあるき」として、<火工廠>語り継ぐ会の熊谷洋興氏にサポートをしていただきながら、旧造兵廠跡地の散策や、上福岡歴史民俗資料館内の模型・資料の見学を行った。学生たちは、初めてのガイドで緊張しながらも、自分たちでもしっかり調べたことを中心に、丁寧な説明を行った。今回の活動をふまえて、次年度に向けて、映像制作の企画が動き出している。

第二に、2024 年 12 月 15 日、公開研究会「戦後地域資料を読む」を上福岡歴史民俗資料館にて開催した。昨年度までの「都市化と地域社会」研究会の成果をふまえ、地域に蓄積されてきた一次資料を、大学研究者だけでなく、学芸員や市民の方々とともに読むことで、その活用方法を探索することを目的とした。今回は、大井郷土資料館に所蔵されていた医療生活協同組合ながいき会の会報『ながいき』1 号から 16 号（3 号は欠号）までを共同で読む作業を行なった。参加者各自で資料を読んだ後に行われたディスカッションでは、活発な意見が出され、論点は多岐に及んだ。そのなかで、1950 年代当時における「ながいき」という言葉の意味するところが、この資料を読んでいる 2024 年現在とは大きく異なっているのではないか、という議論にはハッとさせられた。戦争の記憶が生々しく残り、貧しく、物資は足らず、医療をはじめ生存を支える社会的な仕組みが今よりも十分ではない中、「ながいき」や「健康を守る」という言葉は、とても切迫したものだったのではないか。こうした問いは、資料に向かう視点をアクティベイトする。新たな視界が開かれる問いが生まれること、それもまたこうした研究会の成果なのだと思う。



記憶をつなぐまちあるきの様子

まちラボカレンダー（2024 年度　まちラボ本郷の活用状況）

授業　オープンキャンパス　イベント　打合せ　式典　学会　取材　休館日

4月

1 月	
2 火	入学式
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	外国語学部ゼミ ガイダンス（お花見）
7 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	看護学科会議
12 金	看護公衆衛生・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
13 土	
14 日	
15 月	韓国語初級
16 火	看護公衆衛生
17 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
18 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
19 金	看護公衆衛生・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
20 土	日本地域福祉学会 打合せ
21 日	
22 月	韓国語初級 看護学科打合せ
23 火	公衆衛生看護活動論
24 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
25 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
26 金	看護公衆衛生・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
27 土	
28 日	
29 月	韓国語初級
30 火	公衆衛生看護活動論

5月

1 水	初年次セミナー
2 木	韓国語初級 まちラボ実習・専門演習・まちラボ演習
3 金	
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	公衆衛生看護活動論
8 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
9 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
10 金	看護公衆衛生・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
11 土	GCI特講 II
12 日	
13 月	
14 火	NHK撮影
15 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
16 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
17 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
18 土	GCI特講 II
19 日	
20 月	韓国語初級
21 火	GCI特講 II
22 水	2基礎ゼミ新井、3初年次セミナー甲斐田
23 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
24 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
25 土	GCI特講 II
26 日	
27 月	韓国語初級
28 火	GCI特講 II
29 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
30 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
31 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ

6月

1 土	GCI特講 II
2 日	
3 月	韓国語初級
4 火	
5 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
6 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
7 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ3年
8 土	
9 日	
10 月	韓国語初級
11 火	
12 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
13 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
14 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ3年
15 土	日本地域福祉学会
16 日	日本地域福祉学会
17 月	韓国語初級
18 火	
19 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
20 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
21 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
22 土	
23 日	
24 月	4韓国語初級
25 火	
26 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
27 木	
28 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
29 土	
30 日	

7月

1 月	韓国語初級
2 火	
3 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
4 木	
5 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
6 土	オープンカレッジ
7 日	
8 月	韓国語初級
9 火	
10 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
11 木	
12 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
13 土	オープンキャンパス
14 日	
15 月	
16 火	
17 水	基礎ゼミ・初年次セミナー・初年次ラボ
18 木	
19 金	公衆衛生看護管理論・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
20 土	オープンカレッジ
21 日	向丘・白山 コミュニティフェス
22 月	韓国語初級
23 火	
24 水	基礎ゼミ・初年次セミナー
25 木	
26 金	産業保健看護学実習・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
27 土	
28 日	
29 月	韓国語初級 地域ニーズの会
30 火	
31 水	

8月

1 木	中山ゼミ
2 金	まちラボ演習
3 土	
4 日	
5 月	公衆衛生看護管理論
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	夏季休業
10 土	
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	オープンキャンパス
18 日	オープンキャンパス
19 月	
20 火	
21 水	
22 木	
23 金	
24 土	
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	
29 木	
30 金	
31 土	

エアコン工事

9月

1 日	
2 月	
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	
10 火	
11 水	
12 木	古市ゼミ
13 金	岩舘ゼミ
14 土	
15 日	
16 月	
17 火	
18 水	初年次セミナー
19 木	まちラボプロジェクト演習／実習・専門演習・韓国語初級補講
20 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
21 土	オープンキャンパス
22 日	
23 月	
24 火	
25 水	初年次セミナー
26 木	まちラボプロジェクト演習／実習・専門演習
27 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
28 土	
29 日	貫井ゼミ交流会
30 月	

エアコン工事

10月

1 火	
2 水	初年次セミナー
3 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
4 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
5 土	
6 日	
7 月	粟屋ゼミ
8 火	
9 水	初年次セミナー
10 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
11 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
12 土	
13 日	
14 月	登丸ゼミ・粟屋ゼミ 韓国語初級
15 火	米澤ゼミ
16 水	初年次セミナー
17 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
18 金	文京祭準備
19 土	文京祭準備 コミフェス
20 日	文京祭
21 月	粟屋ゼミ 韓国語初級
22 火	米澤ゼミ
23 水	100周年記念式典
24 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習
25 金	米澤ゼミ・甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
26 土	韓国語初級
27 日	
28 月	粟屋ゼミ 韓国語初級
29 火	米澤ゼミ 保健医療打合せ
30 水	初年次セミナー
31 木	韓国語初級・まちラボ演習／実習・専門演習

11月

1 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	米澤ゼミ 夜ラボ
6 水	初年次セミナー
7 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
8 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
9 土	併設校説明会
10 日	
11 月	韓国語初級
12 火	
13 水	初年次ラボ 初年次セミナー
14 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
15 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
16 土	
17 日	
18 月	韓国語初級
19 火	
20 水	初年次ラボ 初年次セミナー
21 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
22 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
23 土	
24 日	
25 月	韓国語初級
26 火	福院_院生's Voice撮影
27 水	初年次ラボ
28 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
29 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
30 土	

12月

1 日	
2 月	韓国語初級
3 火	
4 水	初年次セミナー
5 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
6 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
7 土	第3回 コミュニティフェス
8 日	貫井ゼミ 留学生イベント
9 月	韓国語初級
10 火	
11 水	初年次セミナー
12 木	夜ラボ／岩舘ゼミ
13 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
14 土	青木プロジェクト イベント
15 日	
16 月	韓国語初級
17 火	
18 水	初年次ラボ 初年次セミナー
19 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
20 金	看護勉強会 甲斐田ゼミ・登丸ゼミ
21 土	総合型選抜
22 日	
23 月	韓国語初級
24 火	
25 水	
26 木	
27 金	
28 土	年末年始休暇
29 日	
30 月	
31 火	

C館外装改修工事

1月

1 水	年末年始休暇
2 木	
3 金	
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	
8 水	初年次セミナー
9 木	韓国語初級 まちラボ演習／実習・専門演習
10 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
11 土	まちラボ貫井プロジェクトイベント
12 日	まちラボ貫井プロジェクトイベント
13 月	
14 火	
15 水	初年次ラボ
16 木	中山ゼミ 口述試験準備
17 金	
18 土	大学入学共通テスト
19 日	大学入学共通テスト
20 月	
21 火	
22 水	
23 木	
24 金	
25 土	大学入試共通テスト 予備日
26 日	大学入試共通テスト 予備日
27 月	まちラボ実習 口述試験
28 火	
29 水	
30 木	
31 金	

C館外装改修工事

2月

1 土	
2 日	
3 月	一般選抜 I 期
4 火	一般選抜 I 期
5 水	新学部PR撮影
6 木	
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	釜石スタディケーション 懇親会
21 金	
22 土	一般選抜 II 期
23 日	
24 月	
25 火	
26 水	
27 木	
28 金	

C館外装改修工事

3月

1 土	
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	卒業生経営者等懇親会
7 金	一般選抜 III 期
8 土	
9 日	
10 月	
11 火	釜石スタディケーション 事前勉強会
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	学位授与式 本郷
16 日	学位授与式 ふじみ野
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	
23 日	オープンキャンパス
24 月	
25 火	
26 水	
27 木	
28 金	
29 土	
30 日	
31 月	まちラボ報告書発行

C館外装改修工事

まちづくり研究センター　Social Design Center

文京学院大学まちづくり研究センター
報告書　2024 年度

発　行　日　2025 年 3 月 31 日
編集・発行　文京学院大学まちづくり研究センター

【まちラボ本郷】
〒 113-8668　東京都文京区向丘 1–19–1
TEL : 03-6240-0897　FAX : 03-6240-0898

【まちラボふじみ野】
〒 356-8533　埼玉県ふじみ野市亀久保 1196
TEL : 049-261-7859　FAX : 049-261-7864